

溪畔林を含む細見谷地域全域を西中国山地国立公園 特別保護地域へ指定することを求める署名のお願い

広島市を貫流し、瀬戸内海に注ぐ太田川、その源流部に細見谷溪畔林があります。溪畔林は、河川上流の溪流沿いに発達する川辺林の一種で、森林に暮らす陸生生物と河川や周辺湿地に生息する水生生物との相互作用によってきわめて高い生産性を有しています。

西中国山地国立公園に指定されている溪畔林を含む細見谷一帯は、溪畔林としての規模、構造の点からも、西日本はもとより、全国的にもきわめて重要な特徴を有していることが近年の生態学的調査によって、明らかにされつつあります。また1970年の環境庁による植物群落調査書では、『水越峠から吉和川合流点まで』Aランク(屋久島などと同じ、原生林)に指定されています。

溪畔林は東日本、北日本の河川上流域には比較的多く存在するものの、西日本ではほとんど見ることはできません。そんな中であって、広島県吉和の細見谷溪畔林は希少な存在であると同時に、幅100～200m、長さ約6Kmにも及ぶその規模は、全国屈指といっても過言ではありません。

広い氾濫源に発達した溪畔林には、サワグルミ、トチ、オヒョウ、イタヤカエデ、シナノキ、ナツツバキ、カツラ、ブナ、イヌブナといった多様な樹種を始め、オモゴウテンナンショウやサンインヒキオコシ、様々なラン科植物など、レッドデータブックに記載されている希少種も多く生育しています。さらにオニツルウメドキやツルアジサイ、サルナシなど胸高直径10cmを超えるツル植物が多いのも細見谷溪畔林の特徴です。

また、溪畔林、瀬、淵、河原、岩場、たまり、細流といった多様な生息場所がカゲロウ類をはじめとする水生昆虫の多様性を保証していますし、陸生貝類に至っては、新種の可能性のある詳細不詳の種が発見されるなど、あらゆる分類群においてきわめて重要な生息地となっています。

こうした、生産性の高さは、ツキノワグマやクマタカなどの大型動物の暮らしを支えています。特に西中国山地のツキノワグマは絶滅のおそれのある孤立個体群として、環境省のレッドデータブックにも記載され、広島県の野生生物保護条例の登録種に指定されています。細見谷地域はこうした状況にあるツキノワグマの中核的な生息地として個体群維持にきわめて重要な意味を持っています。

以上の観点から、私たち、細見谷に関心を持つ科学者は、細見谷を中心とした溪畔林一帯を、「失われつつある西中国山地の原生的自然をとどめる最後の聖地」として、厳重に保全する必要があると考え、細見谷溪畔林一帯を「西中国山地国立公園特別保護地域」に指定するよう、広島県に働きかけていきたいと考えています。

つきましてはこの趣旨をご理解の上、署名活動にご協力頂きますよう、お願いいたします。

細見谷溪畔林保全を求める科学者グループ

代表 金井塚 務(広島フィールドミュージアム 哺乳類生態学)
安溪 貴子(山口大学 植物学)
安溪 遊地(山口県立大学 人類学)
河野 昭一(国際自然保護連合 IUCN-CEM 植物生態学)
竹門 康弘(京都大学 水生昆虫)
豊原 源太郎(広島大学 植物学)
中根 周歩(広島大学 森林生態学)
藤原 信(宇都宮大学名誉教授 林学)
米澤 信道(成安高校 植物学)

(五十音順)

署名送付先 / (事務局)

森と水と土を考える会 原戸 祥次郎

733-0033 広島県広島市西区観音本町 1-17-17

電話・Fax 082-293-6531 E-mail harato@eos.ocn.ne.jp

署名送付先

廿日市・自然を考える会 高木 恭代

738-0032 広島県廿日市市峰高 1-2-4

電話・FAX 0829-39-6655